VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 向け Cisco IMC Supervisor リリース 2.0 インストール ガイド

初版：2016 年 03 月 18 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに v

対象読者 v

表記法 vi

マニュアルに関するフィードバック vii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート vii

概要 1

Cisco IMC Supervisor について 1

最小システム要件 2

Cisco IMC Supervisor の導入とスケーラビリティ 4

サポートされているファイアウォール ポート 6

ライセンスについて 7

製品アクセス キーの契約履行 8

ライセンス タスク 9

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール 11

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール 11

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定 13

システム リソースの予約 14

Microsoft Hyper-V での Cisco IMC Supervisor のインストール 17

Hyper-V 用の Cisco IMC Supervisor について 17

前提条件 17

Microsoft Hyper-V 2008 R2 での Cisco IMC Supervisor のインストール 18

Windows 2012 R2 向け Microsoft Hyper-V での Cisco IMC Supervisor のインストール 20

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定 22

Cisco IMC Supervisor の移行 25

Cisco IMC Supervisor バージョン 2.1 への移行とバージョン 2.1(0.1) または 2.1(0.2) へのアップグレード 25

Cisco IMC Supervisor の移行 26
Cisco IMC Supervisor のアップグレード 26
Cisco IMC Supervisor でサポートされるアップグレード/移行パス 27
インストール後のタスク 29
デフォルト パスワードの変更 29
ライセンスの更新 29

はじめに

ここでは、次の項について説明します。

- 対象読者，v ページ
- 表記法，vi ページ
- マニュアルに関するフィードバック，vii ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート，vii ページ

対象読者

このマニュアルは、Cisco UCS Director または Cisco UCS Director Express for Big Data を使用し、以下の少なくとも 1 つの分野において責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主に対象としています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドラベルなどのGUI要素は、イタリック体（italic）で示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルなどのメインタイトルは、ボールド体（**bold**）で示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*italic*）で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLIコマンドのキーワードは、ボールド体（**this font**）で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注） 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

ワンポイント アドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告 安全上の重要事項

「危険」の意味です。You are in a situation that could cause bodily injury.装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

第 1 章

概要

この章は、次の内容で構成されています。

- Cisco IMC Supervisor について，1 ページ
- 最小システム要件，2 ページ
- Cisco IMC Supervisor の導入とスケーラビリティ，4 ページ
- サポートされているファイアウォール ポート，6 ページ
- ライセンスについて，7 ページ

Cisco IMC Supervisor について

Cisco IMC Supervisor は、大規模なラックマウント サーバを管理できる管理システムです。ラックマウント サーバのグループを作成して、グループ単位でモニタリングや資産管理を行うことができます。Cisco IMC Supervisor が、既存の UCS Director のコネクタとしてインストールされている場合は、Cisco IMC Supervisor の設定がデフォルトの Cisco IMC インストールに優先し、Cisco IMC Supervisor に関連するメニュー オプションとタブのみが表示されます。

Cisco IMC Supervisor を使用して、次のタスクを実行できます。

- サーバの論理的なグループ化とグループごとのサマリーの表示
- 管理対象サーバのインベントリの収集
- サーバとグループのモニタリング
- ファームウェアのダウンロード、アップグレードおよびアクティベーションを含むファームウェアの管理
- サーバの検出、モニタ、管理とファームウェア アップグレードのプログラムによる実行のためのノースバウンド REST API の提供
- 電源制御、LED 制御、ログの収集、KVM の起動、CIMC UI の起動など、スタンドアロン サーバのアクションの管理

- ロールベース アクセス コントロール（RBAC）を使用したアクセスの制限
- 電子メール アラートの設定
- ポリシーおよびプロファイルを使用したサーバ プロパティの設定
- ファームウェアのアップデートまたはサーバ検出などのタスクを延期するためのスケジュールの定義
- UCS サーバ設定ユーティリティを使用したサーバのハードウェア問題の診断
- Cisco Smart Call Home による、プロアクティブな診断、アラート、修復案の提供
- Cisco UCS S3260 高密度ストレージ ラック サーバの管理
- ネットワーク構成ポリシーよる DNS サーバおよびその他のネットワーク設定の設定
- ゾーン分割ポリシーによるサーバへの物理ドライブの割り当て
- さまざまな地理的場所にまたがる複数の診断イメージの設定
- 個々のサーバを 1 つのグループに含めるための電子メール ルールのカスタマイズ

最小システム要件

サポートされているサーバ モデル

- UCS C-220 M3 および M4
- UCS C-240 M3 および M4
- UCS C-460 M4
- UCS C-22 M3
- UCS C-24 M3
- UCS C-420 M3
- UCS E-160S M3
- UCS C3160
- UCS C3260
- UCS EN120E M2
- UCS EN120S M2
- UCS EN140N M2
- UCS E-140S M2
- UCS E-160D M2
- UCS E-180D M2
- UCS E-140S M1

- UCS E-140D M1
- UCS E-160D M1
- UCS E-140DP M1
- UCS E-160DP M1

重要 Cisco IMC Supervisor は 1000 台までの UCS C シリーズおよび E シリーズ サーバをサポートします。スケーラビリティの詳細については、「Cisco IMC Supervisor の導入とスケーラビリティ, （4 ページ）」を参照してください。

ファームウェアの最低バージョン

サーバ	ファームウェアの最低バージョン
UCS C シリーズ サーバ	1.5(4)
UCS E シリーズ サーバ	2.3.1
UCS C3260 サーバ	2.0(13e)

（注） Cisco IMC Supervisor バージョン 2.1.01 は、Cisco IMC バージョン 3.x をサポートしますが、Cisco IMC Supervisor バージョン 2.1 をサポートしません。

サポートされる PCIe カード

- Cisco UCS VIC 1225
- Cisco UCS VIC 1225T
- Cisco UCS VIC 1227
- Cisco UCS VIC 1227T
- Cisco UCS VIC 1385
- Cisco UCS VIC 1387

サポートされるハイパーバイザのバージョン

- ESXi 5.1
- ESXi 5.5
- ESXi 6.0
- Windows 2008 R2 with Hyper-V Manager バージョン 6.1.7

- Windows 2012 R2 with Hyper-V Manager バージョン 6.3.9

最小ハードウェア要件

Cisco IMC Supervisor 環境は、次の表に示す最小システム要件を満たしている必要があります。

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	12 GB
ハード ディスク	100 GB
ストレージの最小書き込み速度	10 MB/sec

Cisco IMC Supervisor の導入とスケーラビリティ

Inframgr プロパティの設定

1. `/opt/infra/inframgr/service.properties` ファイルから、次のプロパティと値を変更します。
   - threadpool.maxthreads.inventory=50
   - cimc.inventory.max.thread.pool.size=100
2. [Shell Admin] に移動して、Cisco IMC Supervisor サービスを停止してから開始することでサービスを再起動します。

展開の推奨事項

Cisco IMC Supervisor は、管理対象のラック サーバの規模に基づいて以下を推奨しています。

要素	小規模展開（1 ～ 250 台のラック サーバ）	中規模展開（251 ～ 500 台のラック サーバ）	大規模展開（501 ～ 1000 台のラック サーバ）
vCPU	4	4	8
CPU 予約	10000 MHz	10000 MHz	10000 MHz
Cisco IMC Supervisor VM メモリ割り当て	12 GB	16 GB	20 GB
Cisco IMC Supervisor VM メモリ予約	12 GB	16 GB	20 GB

要素	小規模展開（1 ～ 250 台のラック サーバ）	中規模展開（251 ～ 500 台のラック サーバ）	大規模展開（501 ～ 1000 台のラック サーバ）
Inframgr メモリ割り当て	6 GB	8 GB	10 GB
Mysql InnoDB BufferPool 設定	1 GB	2 GB	3 GB
ディスク書き込み速度（Direct IO）	10 MB/sec	10 MB/sec	15 MB/sec

Inframgr メモリの割り当て

1 `/opt/infra/inframgr/` に移動し、vi エディタを使用して `run.sh` ファイルを開きます。

2 -Xms6144m -Xmx6144m に移動して、-Xms10240m -Xmx10240m に置き換えます。

Xms は最小を意味し、Xmx は最大を意味します。ここで inframgr メモリが割り当てられます。たとえば、1000 台のラック サーバを管理している場合は、inframgr メモリ割り当てを 10 GB に設定する必要があります。

（注） Inframgr メモリ割り当ては、VM に割り当てられているメモリを増やす場合にのみ増大させる必要があります。そうしないと、高負荷によってこのプロセスがクラッシュする可能性があります。したがって、vCenter UI を使用して IMCS VM のメモリを増やし、メモリ全体を予約してから、このパラメータを変更します。

3 [Shell Admin] に移動して、Cisco IMC Supervisor サービスを停止してから開始することでサービスを再起動します。

Mysql バッファ プールの設定

InnoDB バッファ プールは、Cisco IMC Supervisor VM 内の mysqld プロセスによって使用される内蔵メモリです。負荷に基づいてメモリを増やす必要があります。このプール サイズを変更するには、次の手順を実行します。

1 `/etc/` に移動し、`my.cnf` ファイルを開きます。

2 innodb_buffer_pool_size パラメータに移動します。

たとえば、1000 台のサーバを管理している場合は、値を innodb_buffer_pool_size=3072M にする必要があります。

3 [Shell Admin] に移動して、Cisco IMC Supervisor サービスおよびデータベースを停止してから開始することでサービスおよびデータベースを再起動します。

ダイレクト ディスク入出力速度の決定

1 Cisco IMC Supervisor VM を導入後、コマンド プロンプトに移動し、dd if=/dev/zero of=test.img bs=4096 count=256000 oflag=direct コマンドを入力します。たとえば、次の出力が表示されます。

```
[root@localhost ~]# dd if=/dev/zero of=test.img bs=4096 count=256000 oflag=direct
256000+0 records in
256000+0 records out
1048576000 bytes (1.0 GB) copied, 44.0809 s, 23.8 MB/s
```

（注） 上記の例では、23.8 MB/s がディスクの入出力速度です。

サポートされているファイアウォール ポート

次の表に、該当するサービスおよびポートをリストします。

サービス	ポート番号
サーバ	ファームウェアの最低バージョン
SSH ポート	22
HTTP（S）	80/443
DHCP	UDP 67 および 68
Active Directory	TCP/UDP 389/636 および TCP 3268/3269
DNS	TCP/UDP 53
NTP	TCP/UDP 123
MySQL	3306
Cisco IMC Supervisor ↔ IMC の接続	UDP 80/443

（注） これらのポートとプロトコルがファイアウォールでブロックされている場合、Cisco IMC Supervisor をアップグレードするときにタイムアウトまたは内部エラーが発生することがあります。

ライセンスについて

Cisco IMC Supervisor では次の有効なライセンスが必要です。

- Cisco IMC Supervisor 基本ライセンス。
- Cisco IMC Supervisor 基本ライセンスのあとにインストールする Cisco IMC Supervisor バルク エンドポイント イネーブルメント ライセンス。
- Cisco IMC Supervisor Advanced ライセンス。ポリシーやプロファイルの追加、編集、および削除は基本ライセンスで行えますが、サーバへのポリシーまたはプロファイルの適用には Advanced ライセンスが必要です。ポリシーを適用する際にこのライセンスがないとエラーが発生します。
- デフォルトの組み込み Cisco IMC Supervisor 評価ライセンス。評価ライセンスは、エンドユーザが Cisco IMC Supervisor をインストールし、すべてのサービスを初めて起動するときに自動的に生成されます。50 個のサーバに適用可能です。

重要

- Cisco IMC Supervisor の評価ライセンスを使用している場合は、このライセンスの有効期限（ライセンスが生成されてから 90 日）が切れると、インベントリおよびシステム ヘルス情報（障害など）を取得できなくなることに注意してください。システム データの更新だけでなく、新しいアカウントの追加もできなくなります。その時点で、Cisco IMC Supervisor のすべての機能を使用するには、永久ライセンスをインストールする必要があります。
- 評価時に追加したサーバの数が購入したサーバ ライセンスの数を超えると、インベントリ収集は評価時にすでに追加されているサーバの場合も行われますが、新しいサーバの追加は行えません。たとえば、評価時に約 100 台のサーバを追加し、購入しているのが 25 サーバ ライセンスの場合は、評価ライセンスの期限が切れた後に、新しいサーバを追加できなくなります。また、高度なライセンスなしでは設定に関連する操作を実行できなくなります。
- インポートされた数のサーバがライセンス使用制限を超えると、Cisco IMC Supervisor は、制限を超えない範囲内でのみサーバをインポートし、追加のサーバではエラー メッセージを表示します。

いずれのライセンスも、入手してインストールするためのプロセスは同じです。ライセンスを取得するには、次の手順を実行します。

1. Cisco IMC Supervisor をインストールする前に、Cisco IMC Supervisor ライセンス キーを生成し、証明書（製品アクセス キー）を要求します。
2. シスコのソフトウェア ライセンス サイトに製品アクセス キー（PAK）を登録します（製品アクセス キーの契約履行, （8 ページ） を参照してください）。
3. Cisco IMC Supervisor をインストールした後、ライセンスの更新, （29 ページ） の手順に従ってライセンスを更新します。

4 ライセンスが検証されると、Cisco IMC Supervisor の使用を開始できます。

実行可能な他のさまざまなライセンス タスクについては、「ライセンス タスク，（9 ページ）」を参照してください。

製品アクセス キーの契約履行

シスコのソフトウェア ライセンス サイトで製品アクセス キー（PAK）を登録するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

PAK 番号が必要です。

手順

ステップ 1 シスコ ソフトウェア ライセンスの Web サイトに移動します。

ステップ 2 [Product License Registration] ページに転送されたら、トレーニングを受けるか、[Continue to Product License Registration] をクリックして続行してください。

ステップ 3 [Product License Registration] ページで、[Get New Licenses from a PAK or Token] をクリックします。

ステップ 4 [Enter a Single PAK or TOKEN to Fulfill] フィールドに PAK 番号を入力します。

ステップ 5 [Fulfill Single PAK/TOKEN] をクリックします。

ステップ 6 PAK を登録するために、[License Information] でその他のフィールドに情報を入力します。

フィールド	説明
Organization Name	組織名。
Site Contact Name	サイトの連絡先の名前。
Street Address	組織の番地。
City/Town	市区町村名。
State/Province	都道府県名。
Zip/Postal Code	郵便番号。
Country	国名。

ステップ 7 [Issue Key] をクリックします。
ライセンス契約した機能が表示され、デジタル ライセンス契約書と zip 圧縮のライセンス ファイルが電子メールに添付されて、ユーザ指定の電子メール アドレスに送信されます。

ライセンス タスク

[License] メニューを使用して、ライセンスの詳細とリソースの使用率を確認できます。次のライセンス手順は、[Administration] > [License] メニューから使用できます。

タブ	説明
License Keys	このタブには、Cisco IMC Supervisor で使用されるライセンスの詳細が表示されます。このタブを使用してライセンスをアップグレードすることもできます。新しいバージョンの Cisco IMC Supervisor が使用可能な場合は、ライセンスをアップグレードできます。
License Utilization	このタブには、使用中のライセンスおよび各ライセンスの詳細（ライセンスの制限、使用可能期間、ステータス、備考など）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。
Resource Usage Data	このタブには、使用される各種リソースの詳細が表示されます。

第 2 章

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール

- VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール，11 ページ
- Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定，13 ページ
- システム リソースの予約，14 ページ

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール

はじめる前に

VMware vSphere または vCenter に接続するには、管理者権限が必要です。

（注） DHCP を使用しない場合、IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が必要です。

手順

ステップ 1 **VMware vSphere Client** のログイン ダイアログボックスで、ログイン クレデンシャルを入力します。

ステップ 2 [Login] をクリックします。

ステップ 3 [Navigation] ペインで、Cisco IMC Supervisor の導入のために [Data Center] を選択します。

ステップ 4 [File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
[Deploy OVF Template] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Source] ペインで、次のいずれかの手順で OVF ソース ロケーションを選択します。

- ロケーションを参照し、ファイルを選択して [Open] をクリックします。

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール

- ローカル エリア ネットワーク上の URL から導入します。*FQDN*（完全修飾ドメイン名）を IP アドレスまたはドメイン名に置き換えて、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [OVF Template Details] ペインで、詳細情報を確認して [Next] をクリックします。

ステップ 7 [End User License Agreement] ペインで、ライセンス契約を読んでから [Accept] をクリックします。[Next] をクリックします。

ステップ 8 [Name and Location] ペインで、次を実行します。

a) （任意） [Name] フィールドで VM 名を編集します。

b) Cisco IMC Supervisor を導入する [Data Center] を選択して、[Next] をクリックします。

（注） 前の手順で [Data Center] を選択した場合、オプション b は使用できません。

ステップ 9 [Host/Cluster] ペインで必要なホスト、クラスタ、またはリソース プールを選択して、[Next] をクリックします。

ステップ 10 [Datastore] ペインで、Cisco IMC Supervisor VM ファイルを保存するロケーションを選択して、[Next] をクリックします。

ステップ 11 [Disk Format] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンを選択して、[Next] をクリックします。

- [Thin Provisioned format]：データをディスクに書き込むときに、必要に応じてストレージを割り当てます。
- [Thick Provisioned (Lazy Zeroed) format]：シック形式ですぐにストレージを割り当てます。
- [Thick Provisioned (Eager Zeroed) format]：シック形式でストレージを割り当てます。このオプションを使用してディスクを作成する場合、時間がかかることがあります。

ステップ 12 [Network Mapping] ペインで、該当するネットワークを選択して [Next] をクリックします。

ステップ 13 [Properties] ペインで、次の情報を入力し、[Next] をクリックします。

- Root パスワード

  （注） Root パスワードは、指定されていない場合はデフォルト値が設定されません。root としてログインするには、shell admin クレデンシャルを使用する必要があります。

- Shelladmin パスワード

  （注） Shelladmin パスワードは、指定されていない場合はデフォルト値（changeme）が設定されます。

- 管理 IP アドレス
- 管理 IP サブネット マスク
- ゲートウェイ IP アドレス

管理 IP アドレスと管理 IP サブネット マスクは 0.0.0.0 に設定され、デフォルトで DHCP を使用します。

ステップ 14 [IP Address Allocation] ペインで、[Next] をクリックします。

デフォルトでは、DHCP チェックボックスはオンになっています。

ステップ 15 [Ready to Complete] ペインで、選択されたオプションを確認して、[Finish] をクリックします。

ステップ 16 VM で性能を発揮できるだけの十分な vCPU とメモリがあることを確認します。

ステップ 17 VM の電源を入れます。

ステップ 18 アプライアンスが起動して、スタティック IP の設定を要求されたら、次を実行します。

- DHCP を使用する場合は、n を入力して IP アドレスが自動的に割り当てられることを確認します。
- （注） IPv4 または IPv6 の選択を求められますが、IPv6 は現時点で Cisco IMC Supervisor によってサポートされていません。

スタティック IP アドレスを使用する場合は、y を入力します。その後 IPv4 または IPv6 の選択を求められます。V4 と入力して IPV4 を設定し、次の情報を入力します。

- IP アドレス
- ゲートウェイ
- ネットマスク
- DNS サーバ

（注） 現在、スタティック IP アドレスの設定でサポートされているのは IPv4 のみです。

ステップ 19 設定作業を続行するかの確認が求められたら、y と入力します。
続行する前に、アプライアンスの起動を待ちます。

ステップ 20 アプライアンスが起動したら、表示された Cisco IMC Supervisor の IP アドレスをコピーして、サポートされている Web ブラウザに貼り付け、[Login] ページにアクセスします。

ステップ 21 [Login] ページでは、ユーザ名の `admin` とログイン パスワードの `admin` を入力します。

（注） この初回のログインの後、admin パスワードを変更します。ログインパスワードの変更の詳細については、「デフォルト パスワードの変更」を参照してください。

次の作業

ライセンスを更新します。

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定

この手順は任意です。

手順

ステップ 1 次のクレデンシャルで Cisco IMC Supervisor VM コンソールにログインします。

a) ユーザ：shelladmin

b) パスワード：changeme

shelladmin にログイン済みでデフォルト パスワードを変更している場合は、上記パスワードの代わりにその新しいパスワードを使用します。

ログイン後に [Change shelladmin password] を選択してデフォルト パスワードを変更できます。

ステップ 2 [Configure Network Interface] を選択します。

ステップ 3 `Do you want to Configure DHCP/STATIC IP [D/S]` プロンプトで、次のどちらかを入力します。

- DHCP が有効である場合、D を入力します（IP アドレスが自動的に割り当てられます）。
- スタティック IP を設定するには、S を入力してから、次のプロンプトで設定するインターフェイスを選択します。その後 IPv4 または IPv6 を選択するオプションが表示されます。続いて、選択されたインターフェイスと IP のバージョンの確認が行われます。[Y] を選択して続行します。次の詳細を入力します。
  - IP アドレス
  - ネットマスク
  - ゲートウェイ
  - （任意）DNS サーバ 1
  - （任意）DNS サーバ 2

ステップ 4 プロンプトが表示されたら、承諾します。

システム リソースの予約

最適なパフォーマンスを実現するために、システムの最小要件を超えた追加のシステム リソースを Cisco IMC Supervisor のために予約することをお勧めします。

（注） システム リソースの予約方法についての詳細は、VMWare のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 VMware vCenter にログインします。

ステップ 2 Cisco IMC Supervisor の VM を選択します。

ステップ 3 VM をシャットダウンします。

ステップ 4 VMware vCenter で [Resource Allocation] タブをクリックして現在のリソース割り当てを表示し、[Edit] をクリックします。

ステップ 5 [Virtual Machine Properties] ペインで、リソースを選択して新しい値を入力することで、リソース割り当てを編集します。

ステップ 6 新しいリソース割り当てが設定されたことを確認します。

第 3 章

Microsoft Hyper-V での Cisco IMC Supervisor のインストール

- Hyper-V 用の Cisco IMC Supervisor について，17 ページ
- 前提条件，17 ページ
- Microsoft Hyper-V 2008 R2 での Cisco IMC Supervisor のインストール，18 ページ
- Windows 2012 R2 向け Microsoft Hyper-V での Cisco IMC Supervisor のインストール，20 ページ
- Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定，22 ページ

Hyper-V 用の Cisco IMC Supervisor について

Hyper-V 環境での Cisco IMC Supervisor の導入がサポートされます。

（注） SCVMM コンソールではなく、Hyper-V Manager ホストに Cisco IMC Supervisor を導入することをお勧めします。

前提条件

- Hyper-V Manager のインストール
- 設定されたシステム管理者権限
- Hyper-V ホストにインストールされた Cisco IMC Supervisor

Microsoft Hyper-V 2008 R2 での Cisco IMC Supervisor のインストール

はじめる前に

Hyper-V のシステム管理者権限が必要です。

（注） DHCP を使用しない場合、IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が必要です。

手順

ステップ 1 Hyper-V ホストにログインします。

ステップ 2 [Start] > [Administrative Tools] を選択して、Hyper-V Manager を開きます。

ステップ 3 [Hyper-V Manager] ダイアログ ボックスで [New] > [Virtual Machine] を選択します。

ステップ 4 [Before You Begin] ペインで、カスタム設定オプションを選択して [Next] をクリックします。

ステップ 5 [Specify Name and Location] ペインで、[Name] フィールドの VM 名を編集し、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [Specify Name and Location] ペインで、[Store the virtual machine in a different location] チェックボックスをオンにし、代替場所を指定します。指定しないと、仮想マシンはデフォルトのフォルダに保存されます。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Assign Memory] ペインで、この VM に割り当てるメモリの量を入力し（12 GB を推奨）、[Next] をクリックします。

ステップ 9 [Configure Networking] ペインで、[Connection] フィールドに指定した設定の変更は行わず、[Next] をクリックします。

ステップ 10 [Connect Virtual Hard Disk] ペインで、[use an existing virtual hard disk] または [attach a virtual hard disk later] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

ステップ 12 [Completing the New Virtual Machine Wizard] ペインで設定を確認し、[Finish] をクリックします。

ステップ 13 [Hyper-V Manager] ペインで、新しい VM を右クリックし、[Settings] を選択します。

ステップ 14 [Navigation] ペインで、[IDE Controller 0] を選択します。

ステップ 15 [IDE Controller] ペインで、[Hard Drive] を選択して [Add] をクリックします。

ステップ 16 [Hard Drive] ペインで、[Browse] をクリックし、ダウンロードした Cisco IMC Supervisor .vhd ファイルを選択して [Open] をクリックします。

ステップ 17 [Apply] をクリックします。

ステップ 18 仮想ハード ドライブのプロパティを確認します。

ステップ 19 [Navigation] ペインで、[Memory] を選択します。

ステップ 20 [Memory] ペインで、推奨値（12 GB 以上）を入力し、[Memory weight] を [High] にドラッグします。

ステップ 21 [Navigation] ペインで、[Processor] を選択します。

ステップ 22 [Processor] ペインで、推奨値（4 vCPU）を選択し、[Resource Control] ペインで、[Virtual machine reserve (percentage)] フィールドに 100 と入力します。

ステップ 23 [Navigation] ペインで、[Network Adapter] を選択します。

ステップ 24 [Remove] をクリックして、新規 VM の作成時に作成されたネットワーク アダプタを削除します。

ステップ 25 [Navigation] ペインで、[Add Hardware] を選択します。

ステップ 26 [Add Hardware] ペインで、[Legacy Network Adapter] を選択して [Add] をクリックします。

ステップ 27 [Legacy Network Adapter] ペインの [Network] フィールドで、[Local Area Connection - Virtual Network]

を選択し、[Apply] をクリックします。

ステップ 28 vCPU とメモリのリソースが十分に割り当てられていることを確認します。
最小システム要件については、「最小システム要件, （2 ページ）」を参照してください。

ステップ 29 [OK] をクリックします。

ステップ 30 VM の電源を入れます。

ステップ 31 必要に応じて、shelladminからネットワーク プロパティを設定できます。ネットワーク プロパティの設定の詳細については、「Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定, （13 ページ）」を参照してください。

ステップ 32 アプライアンスが再起動したら、表示された Cisco IMC Supervisor の IP アドレスをコピーして、サポートされている Web ブラウザに貼り付けて [Login] ページにアクセスします。

ステップ 33 ログイン プロンプトで、ユーザ名として `admin`、パスワードとして `admin` を入力して Cisco IMC Supervisor にログインします。

（注） この初回のログインの後に、管理者パスワードを変更します。

次の作業

ライセンスを更新します。

Windows 2012 R2 向け Microsoft Hyper-V での Cisco IMC Supervisor のインストール

はじめる前に

- Hyper-V のシステム管理者権限が必要です。
- Windows 2012 R2 with Hyper-V Manager バージョン 6.3.9

（注）

- ウィザードでは標準 VM を作成します。デフォルトの設定を受け入れ、最後に VM を編集します。
- デフォルトでは、このバージョンの Microsoft Hyper-V は DHCP を使用します。DHCP ではなく静的 IP アドレスを使用する場合は、shelladmin を使用してこの設定を変更できます。

手順

ステップ 1 Hyper-V ホストにログインします。

ステップ 2 [Start] > [Administrative Tools] を選択して、Hyper-V Manager を開きます。

ステップ 3 [Hyper-V Manager] ダイアログ ボックスで [New] > [Virtual Machine] を選択します。

ステップ 4 [Before You Begin] ペインで、[Next] をクリックします。

ステップ 5 [Name and Location] ペインで、[Name] フィールドの VM 名を編集し、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [Specify Name and Location] ペインで、[Store the virtual machine in a different location] チェックボックスをオンにし、代替場所を指定します。指定しないと、仮想マシンはデフォルトのフォルダに保存されます。

ステップ 7 この仮想マシンに対し [Generation 1] を選択します。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Assign Memory] ペインで、この VM に割り当てるメモリの量を入力し（12 GB を推奨）、[Next] をクリックします。

ステップ 10 [Configure Networking] ペインで、[Connection] フィールドに指定した設定の変更は行わず、[Next] をクリックします。

ステップ 11 [Connect Virtual Hard Disk] ペインで、[use an existing virtual hard disk] または [attach a virtual hard disk later] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 12 [Completing the New Virtual Machine Wizard] ペインで設定を確認し、[Finish] をクリックします。

ステップ 13 [Navigation] ペインで、新しい VM を右クリックし、[Settings] を選択します。

ステップ 14 [Navigation] ペインで、[IDE Controller 0] を選択します。

ステップ 15 [IDE Controller] ペインで、[Hard Drive] を選択して [Add] をクリックします。

ステップ 16 [Hard Drive] ペインで、ダウンロードした Cisco IMC Supervisor .vhd ファイルを選択して [OK] をクリックします。

ステップ 17 仮想ハード ドライブのプロパティを確認します。

ステップ 18 [Navigation] ペインで、[Memory] を選択します。

ステップ 19 [Memory] ペインで、推奨値（12 GB 以上）を入力します。

ステップ 20 [Navigation] ペインで、[Processor] を選択します。

ステップ 21 [Processor] ペインで、推奨値（4 vCPU）を入力します。

ステップ 22 新規 VM の作成時に作成されたネットワーク アダプタを削除します。

ステップ 23 [Navigation] ペインで、[Add Hardware] を選択します。

ステップ 24 [Add Hardware] ペインで、[Legacy Network Adapter] または [Network Adapter] を選択して [Add] をクリックします。

ステップ 25 [Navigation] ペインで、従来のネットワーク アダプタを選択します。

ステップ 26 [Legacy Network Adapter] ペインの [Network] フィールドで、[Local Area Connection - Virtual Network] を選択し、[Apply] をクリックします。

ステップ 27 vCPU とメモリのリソースが十分に割り当てられていることを確認します。
最小システム要件については、「最小システム要件, （2 ページ）」を参照してください。

ステップ 28 VM の電源を入れます。

ステップ 29 必要に応じて、shelladminからネットワーク プロパティを設定できます。ネットワーク プロパティの設定の詳細については、「Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定, （13 ページ）」を参照してください。

ステップ 30 アプライアンスが再起動したら、表示された Cisco IMC Supervisor の IP アドレスをコピーして、サポートされている Web ブラウザに貼り付けて [Login] ページにアクセスします。

ステップ 31 ログイン プロンプトで、ユーザ名として `admin`、パスワードとして `admin` を入力して Cisco IMC Supervisor にログインします。

（注） この初回のログインの後に、管理者パスワードを変更します。

次の作業

ライセンスを更新します。

Shelladmin によるネットワーク インターフェイスの設定

この手順は任意です。

手順

ステップ 1 次のクレデンシャルで Cisco IMC Supervisor VM コンソールにログインします。

a) ユーザ：shelladmin

b) パスワード：changeme

shelladmin にログイン済みでデフォルト パスワードを変更している場合は、上記パスワードの代わりにその新しいパスワードを使用します。

ログイン後に [Change shelladmin password] を選択してデフォルト パスワードを変更できます。

ステップ 2 [Configure Network Interface] を選択します。

ステップ 3 `Do you want to Configure DHCP/STATIC IP [D/S]` プロンプトで、次のどちらかを入力します。

- DHCP が有効である場合、D を入力します（IP アドレスが自動的に割り当てられます）。
- スタティック IP を設定するには、S を入力してから、次のプロンプトで設定するインターフェイスを選択します。その後 IPv4 または IPv6 を選択するオプションが表示されます。続いて、選択されたインターフェイスと IP のバージョンの確認が行われます。[Y] を選択して続行します。次の詳細を入力します。
  - IP アドレス
  - ネットマスク
  - ゲートウェイ

- （任意）DNS サーバ 1
- （任意）DNS サーバ 2

ステップ 4 プロンプトが表示されたら、承諾します。

第 4 章

Cisco IMC Supervisor の移行

この章は、次の内容で構成されています。

- Cisco IMC Supervisor バージョン 2.1 への移行とバージョン 2.1(0.1) または 2.1(0.2) へのアップグレード，25 ページ
- Cisco IMC Supervisor でサポートされるアップグレード/移行パス，27 ページ

Cisco IMC Supervisor バージョン 2.1 への移行とバージョン 2.1(0.1) または 2.1(0.2) へのアップグレード

Cisco IMC Supervisor2.1(0.1) および 2.1(0.2) はパッチとして提供されます。[Shell Admin] メニューの [Apply Patch] オプションを使用して、バージョン 2.1 から 2.1(0.1) または 2.1(0.2) にアップグレードできます。アップグレードについては、「Cisco IMC Supervisor のアップグレード，（26 ページ）」を参照してください。

Cisco IMC Supervisor 2.1 は、アプライアンスとして使用できます。[Shell Admin] メニューの [Apply Patch] オプションを使用して、2.0 バージョンから 2.1 にアップグレードできます。アップグレードについては、「Cisco IMC Supervisor のアップグレード，（26 ページ）」を参照してください。

Cisco IMC Supervisor のバージョン 1.0 または 1.1 からバージョン 2.1 へはアップグレードできません。2.0 以前のバージョンについては、まず 2.0 に移行してから、2.1 にアップグレードする必要があります。移行パスと移行の詳細については、「Cisco IMC Supervisor の移行」を参照してください。

重要

zip 3.x を CentOS 6.x.で使用して Cisco IMC Supervisor 2.1 OVF と VHD の zipファイルが作成されます。Linux システムの場合は、unzip 6.x 以降または最新バージョンの 7-Zip アーカイブ ツールを使用して zip ファイルを抽出できます。Windows システムの場合、Windows 10 および Windows Server 2012 R2 では Windows Explorer のネイティブの Extract All、または 7-Zip や WinRAR などの最新バージョンのアーカイブ ツールを使用して zip ファイルを抽出できます。

Cisco IMC Supervisor の移行

2.0 以前の Cisco IMC Supervisor バージョンを移行するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 Cisco IMC Supervisor 2.0 アプライアンスを設定します。詳細については、VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール，（11 ページ）またはMicrosoft Hyper-V 2008 R2 での Cisco IMC Supervisor のインストール，（18 ページ）を参照してください。

ステップ 2 shelladmin コンソールから root としてログインします。オプション 20 を選択します。

（注） ルート パスワードには、スペースを含めることはできません。

ステップ 3 /opt/infra/migration/performMigration.sh を実行します。

ステップ 4 既存のアプライアンス 1.1.x.x を指定します。すべての既存のデータがインポートされます。

（注） 1.0.0.x アプライアンスを指定すると、移行スクリプトでエラーが表示されます。

ステップ 5 2.0 アプライアンスをテストし、データを検証します。

ステップ 6 古い 1.1.x.x アプライアンスを無効にします。

Cisco IMC Supervisor のアップグレード

次の手順を実行して、Cisco IMC Supervisor をアップグレードすることができます。

手順

ステップ 1 SSH アプリケーションを開き、Cisco IMC Supervisor アプライアンスの IP アドレスとポート番号を入力します。

ステップ 2 クレデンシャルで Cisco IMC Supervisor にログインします。

ステップ 3 Cisco IMC Supervisor シェル メニューから、[3) Stop Services] を選択します。

ステップ 4 すべてのサービスが停止していることを確認するために、[2) Display Services Status] を選択します。

ステップ 5 （任意）必要に応じて、[7) Backup Database] を選択して Cisco IMC Supervisor データベースをバックアップできます。

ステップ 6 アップグレードするには、[16) Apply Patch] を選択します。

ステップ 7 プロンプトが表示されたら、パッチの場所を入力します。たとえば、*<transfer protocol type>: // username : password @ hostname | IP_address / software_location_and_name* と入力します。

（注） サポートされる転送プロトコルのタイプは、FTP、HTTP、およびローカル ファイル システムです。次の例を使用できます。

- SFTP：**<filename.zip>**
  （注） SFTP ユーザは、セキュア プロトコル FTP または SCP を使用する必要があります。
- SCP：**<file path>/<filename.zip>**
- FTP（ホスト名）：**ftp://test:test123@test.cisco.com/opt/infra/external/uploads/imcs/<filename.zip>**
- FTP（IP アドレス）：**ftp://test:test123@10.10.10/opt/infra/external/uploads/imcs/<filename.zip>**
- HTTP：**http://test.cisco.com/downloads/<filename.zip>**
- HTTPS：**https://test.cisco.com/downloads<filename.zip>**
- ローカル ファイル システム：**file:///opt/infra/uploads/<filename.zip>**

ステップ 8 ダウンロードとインストールが完了するまで待ちます。

ステップ 9 [5) Stop Database] を選択してから、[6) Start the Database] を選択します。

ステップ 10 プロンプトが表示されたら、[4) Start Services] を選択し、アップグレードプロセスを完了します。

（注） Cisco IMC Supervisor サービスが開始し、Cisco IMC Supervisor が使用可能になり、ログイン画面が表示されて管理ユーザが Cisco IMC Supervisor にログインできるようになるまでは、アップグレードプロセスは完了または成功しません。追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベースの復元など、すべてのサービスは他の shelladmin プロシージャを実行する前に開始されている必要があります。

ステップ 11 アップグレードが完了したら、shelladmin で [11) Show Version] を選択して、Cisco IMC Supervisor の現行バージョンを確認します。

（注）
- サービスの状態を表示するには、[2) Display Services Status] を選択します。
- Cisco IMC Supervisor をアップグレードしてポリシーまたはプロファイルを適用すると、使用可能なサーバで既存のラック アカウントのリストを表示できなくなります。パッチ アップグレードが完了したら、[Administration-] > [System] > [System Tasks] > [Rack Server Tasks] に移動し、[Group Rack Server Inventory Task] を選択し、[Run Now] をクリックします。

Cisco IMC Supervisor でサポートされるアップグレード/移行パス

Cisco IMC Supervisor リリース 2.0 へのアップグレード パスは、ご使用中の Cisco IMC Supervisor のバージョンにより異なります。Cisco IMC Supervisor リリース 2.0 でサポートされるアップグレード/移行パスは、以下のとおりです。

（注） リリース2.0以降、アップグレードでは有効なターゲットパスがチェックされ、アプライアンス バージョンおよびターゲット バージョンからのアップグレード パスがサポートされている場合にのみ、アップグレードします。

現在のリリース	直接アップグレード/移行のサポート	アップグレード パス
1.0.0.0 または 1.0.0.1	No	1.1.0.1 > 1.1.0.0 > 2.0.0.0 （注） Cisco IMC Supervisor の 1.0 から 1.1 へのアップグレードについては、『*Cisco IMC Supervisor Installation and Upgrade on VMware vSphere, Release 1.1*』を参照してください。
1.1.0.0	Yes	2.0 .
1.1.0.1	Yes	2.0
1.1.0.2	Yes	2.0 （注） バージョン 1.1.0.2 からバージョン 2.0.0.0 にアップグレードするには、/opt/infra/migration に移動し、migration-path-info.txt ファイルにバージョン 1.1.0.2 を追加します。

第 5 章

インストール後のタスク

- デフォルト パスワードの変更，29 ページ
- ライセンスの更新，29 ページ

デフォルト パスワードの変更

手順

ステップ 1 メニューから [Administration] > [Users] を選択します。

ステップ 2 [Login Users] タブをクリックします。

ステップ 3 [Login Users] のリストから [admin] を選択します。

ステップ 4 [Change Password] をクリックします。

ステップ 5 [Change Password] ダイアログボックスで新しいパスワードを入力し、もう一度確認のためにパスワードを入力します。

ステップ 6 [Save] をクリックします。

ライセンスの更新

Cisco IMC Supervisor の使用を始める前にライセンスを更新するには、次の手順を実行する必要があります。有効なライセンスのリストについては、ライセンスについて，（7 ページ） を参照してください。ライセンスキーを生成し、製品アクセスキーを要求し、登録する必要があります。Cisco IMC Supervisor をインストール後、ライセンスが検証され、Cisco IMC Supervisor の使用を開始できます。

はじめる前に

ライセンス ファイルを圧縮ファイルで受け取った場合は、展開して .lic ファイルをローカル マシンに保存します。

手順

ステップ 1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ 2 [License] ページで、[Update License] をクリックします。

ステップ 3 [Update License] 画面で、次のいずれかを実行します。

- .lic ファイルをアップロードするには、[Browse] をクリックして .lic ファイルを探して選択し、[Upload] をクリックします。
- ライセンス キーの場合は、[Enter License Text] チェックボックスをオンにし、ライセンス キーのみをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けます。ライセンス キーは通常、ファイルの先頭の Key -> の後にあります。

  ライセンス ファイルのフル テキストをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けることもできます。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。
ライセンス ファイルが処理されて、更新の成功を確認するメッセージが表示されます。